



日本平滑筋学会 News Letter

No.18 2024年3月8日発行

発行所：日本平滑筋学会事務局
〒700-8505 岡山市北区中山下
2-6-1 川崎医科大学総合医療セ
ンター検査診断学／中央検査科
TEL: 086-225-2111
FAX: 086-232-8343
E-mail: jsmr-adm@umin.ac.jp
HP: <https://www.jssmr.jp>
発行責任者：眞部 紀明
編集責任者：竹谷 浩介

新理事長からのメッセージ

理事長：眞部 紀明

川崎医科大学総合医療センター

検査診断学（内視鏡・超音波） / 中央検査科



日本平滑筋学会は平滑筋筋電図研究会として1959年に第一回目の総会が開催され、2年後には日本平滑筋学会と改称して現在に至り、2019年で60周年を迎えました。臓器間、あるいは基礎と臨床間の垣根を乗り越え、平滑筋をキーワードとして研究者が集うユニークな学会で日本医学会の94番目の分科会として認定されております。他に競合する学会のないことが有利に働いたとは思われますが、先達の努力なしには日本医学会の分科会にはなり得ませんでした。この度、歴史と伝統のある平滑筋学会の理事長を拝命しましたことは誠に光栄に存じますし、同時に責任の重さに身が引き締まる思いがいたします。

私は、1993年3月に広島大学医学部を卒業の後、広島大学病院及び関連施設で臨床医として研鑽を積んで参りました。その後、1998年4月より広島大学に戻り、1999年4月より広島大学大学院医学系研究科内科系専攻に進学し、春間 賢先生（本学会の6代目理事長、現、川崎医科大学特任教授）のもと各種消化管疾患の病態研究を開始致し、現在まで約30年近く平滑筋研究に関わってきました。その後、川崎医科大学へ異動し、平成21年4月より米国 Mayo Clinic, Clinical Enteric Neuroscience Translational and Epidemiological Research (CENTER)に留学し、Michael Camilleri 教授のもと、神経消化器病学の基礎と臨床について研究致しました。近年、わが国の消化器疾患の疾患

構造には変化が生じていると言われております。かつて多かった消化性潰瘍などの器質的疾患は少しずつ減少してきており、消化管アレルギーを含む機能的消化管疾患の割合が高くなっています。近年、この様な背景のもと腸内細菌やアレルギー、各種免疫機構を介した広義の消化器病態研究が活発化している様に感じます。これらの病態生理に平滑筋機能は直接的あるいは間接的に深く関わっており、基礎と臨床のトランスレーショナルな研究による平滑筋関連研究は、今後の科学の進歩に大きく貢献できるものと確信しております。

ここ数年の平滑筋学会の課題として、総会における臨床系の発表題数の減少、会員数の伸び悩み、機関誌への投稿論文数の減少、などが取り上げられています。特に、若手会員数、および若手会員の発表題数の増加は、喫緊の課題だと認識しております。先代の柴田理事長を含む名誉理事長のご尽力により、若手の会の立ち上げなどを実現してきました。今後も若手の会員にとっても有意義な学会となるように努める所存です。

複数の臓器にまたがって基礎系・臨床系の研究者が議論を進められることは本学会の最大の特徴であり強みです。本学会がそのような場となっていくことを願ってやみませんし、私自身も努力して参りますので今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。

第9回白鳥常男賞は清水翔吾氏が受賞

白鳥常男賞は平滑筋・筋電図研究会（後の日本平滑筋学会）発起人であられた、故 白鳥常男先生（奈良県立医科大学・名誉教授）の遺徳を偲び、平滑筋及びその関連領域の若手研究者の研究奨励を目的として2014年に設立されました。第9回白鳥常男賞は清水翔吾氏(高知大学)が受賞しました。受賞者に受賞研究の概要を紹介してもらいました。

加齢に伴う重度高血圧による膀胱機能障害に対する ARB ロサルタンの効果

受賞論文：[Shogo Shimizu, Yoshiki Nagao, Atsushi Kurabayashi, Takahiro Shimizu, Youichirou Higashi, Takashi Karashima, Motoaki Saito. Effects of losartan on bladder dysfunction due to aging-related severe hypertension in rats. Eur J Pharmacol. 2022 May 5;922:174911.](#)

清水 翔吾

高知大学
医学部 薬理学講座



排尿筋低活動は排尿筋収縮力低下や収縮持続時間が減少するため、尿を効率よく排出できない膀胱機能障害です。そのため、罹患者の生活の質の低下が問題となっております。加齢が排尿筋低活動の危険因子と考えられておりますが、その成因は十分に明らかになっておらず、有効な治療法は限定的です。これまで、我々は自然発症高血圧ラット（SHR）にて、加齢が高血圧を重篤化させ、排尿筋低活動様の膀胱機能障害（残尿量増加、排尿間隔延長および排尿効率低下）を惹起することを報告しました。

今回、我々は SHR の膀胱機能障害に対する降圧薬アンジオテンシンIIタイプ1受容体（ARB）ロサルタンの効果を検討しました。その結果、降圧作用を示さない低用量のロサルタン投与においても排尿筋低活動様の膀胱機能障害（残尿増加および排尿間隔延長）を抑制することが明らかになりました。以上より、ARB ロサルタンは高血圧のみならず、排尿筋低活動進行または類似する膀胱機能障害を抑制する可能性が考えられました。

最後に、ご指導・ご支援頂きました本論文の共著者の先生方、本賞の選考に携わってくださった先生方、推薦者の橋谷光先生に心より感謝申し上げます。

この度は第9回白鳥常男賞を賜り、大変光栄に存じます。

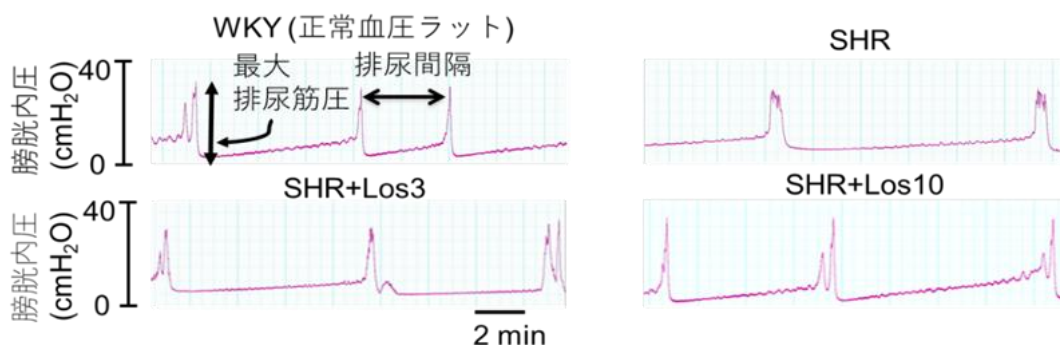


図. 自然発症高血圧ラット（SHR）の膀胱機能障害に対する ARB ロサルタンの効果

降圧作用を示さない低用量の ARB ロサルタン投与（SHR+Los3）においても SHR の排尿間隔の改善がみられた。Shimizu S et al. *Eur J Pharmacol* 922: 174911, 2022.より改変引用

2023年の日本平滑筋学会賞は松崎氏、湯木氏、山川氏が受賞

昨年（2023年）東京大学で開催された第65回日本平滑筋学会総会では、学会の将来を担う研究者の育成・奨励を目的とし、若手研究者および学生による優れた演題に日本平滑筋学会賞を授与いたしました。総会では総勢15名の素晴らしい候補講演の中から、松崎賢寿氏（大阪大学）、湯木夏扶氏（岐阜大学）、山川優輝氏（東京大学）の講演が選ばれ、学会賞が授与されました。受賞者に受賞研究の概要を紹介していただきました。

局所硬化に基づく筋肉再生の機序解明

松崎 賢寿

大阪大学 大学院工学研究科
物理学系専攻 応用物理学コース



本発表では、骨格筋の再生過程には、局所的に硬化した硬さの空間パターンが出現することを見出し、骨格筋再生に関わる骨格筋芽細胞の集合運動を生体外で自在制御に成功しました。

今後も、生体内の硬さ環境を模倣できる培養材料（Matsuzaki et al., *iScience* 2022）を活かしながら、筋肉の再生医療に資する医理工連携を拡大していく所存です。

第65回平滑筋学会総会において、学会演題賞を賜り感無量です。研究者人生で初めての賞で、医学・生物学の先生方の前で、物理化学に基づく医理工連携の成果を評価頂いた点、とても嬉しく身の引き締まる思いです。

本研究は、局所に硬化した場が筋肉再生に与える影響を検討したものです。

私は生体内の硬さが臓器再生に対して与える影響を解明するため、肝臓オルガノイド（肝臓の種）の創生を制御する高分子材料の開発を進めてきました（Takebe, ..., Matsuzaki et al., *Cell Stem Cell* 2015, Front cover）。

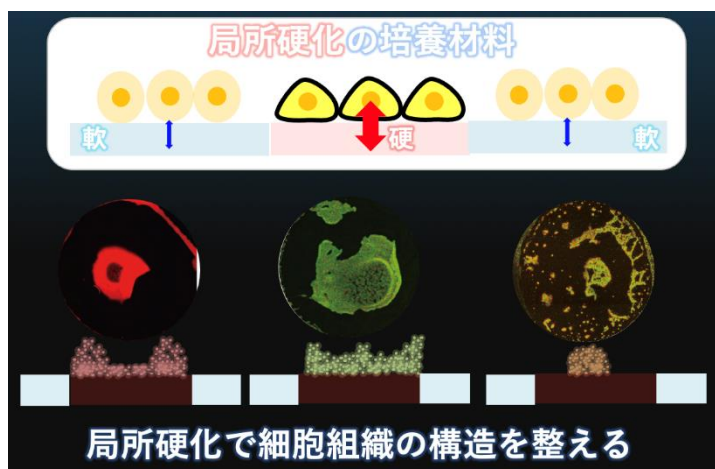


図. 局所硬化に基づく組織構造の自己組織化

ストレスが排便を誘発する神経経路の検討 - ラットにおける視床下部背内側核の活性化に着目した研究 -

湯木 夏扶

岐阜大学大学院共同獣医学研究科
獣医生理学研究室



この度は、第65回日本平滑筋学会総会におきまして、学会演題賞を授与していただき誠にありがとうございます。今回受賞いたしました演題では、ストレスが排便を引き起こす神経経路を解明する研究について発表致しました。

本研究では、ストレス中枢の1つである視床下部背内側核（DMH）に着目しました。麻酔下の雄ラットにおいてDMHにAMPA酸受容体作動薬を注入すると、大腸運動の亢進応答が認められました。人工受容体DREADD（designer receptors exclusively）

activated by designer drugs) を用いた神経制御により、DMH 刺激による大腸運動の亢進応答は DMH から延髄縫線核および間脳 A11 領域へと投射する神経経路が引き起こしていることが明らかとなりました。縫線核および A11 領域には脊髄腰仙髄部の排便中枢へと投射するモノアミン作動性神経が存在し、排便を制御することがわかっています。

今後更なる検討を行うことにより、過敏性腸症候群をはじめとするストレス誘発性排便異常の病態解明に寄与できるよう努めていきたいと存じます。

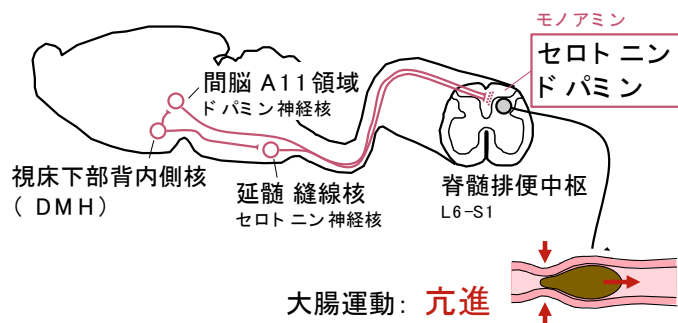


図: 視床下部背内側核 (DMH) の活性化が大腸運動の亢進を起こす神経経路

腹膜透析に起因する消化管運動障害のメカニズム解明

山川 優輝

東京大学大学院
農学生命科学研究科
獣医薬理学研究室

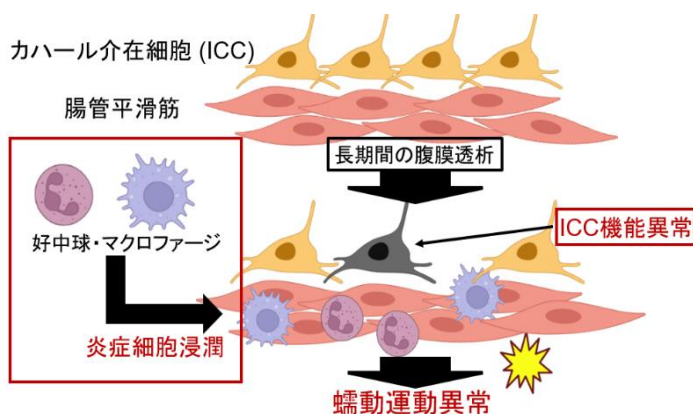


細胞として知られるカハール介在細胞の形態及び機能異常が示唆されました。これらの結果から、腹膜透析モデルマウスにおいて炎症の発生及びカハール介在細胞の機能異常による消化管運動異常の発生といった複数要因より、消化管輸送能低下が引き起こされたのではないかと考察しました。

本研究が腹膜透析の普及の一助になれば幸いです。

この度は第 65 回総会におきまして、優秀演題賞を賜り誠に光栄に存じます。今回受賞致しました演題では、腹膜透析に起因する消化管運動障害のメカニズム解明について発表致しました。

腹膜透析の合併症として消化管障害が報告されておりますが、そのメカニズムについては精査されていません。そこで、グルコース含有の透析液で問題となるグルコース分解産物の一つであるメチルグリオキサールを用いた腹膜透析モデルマウスを用いて、消化管運動障害について検討しました。本モデルマウスにおいて消化管輸送能の低下が確認されました。また、回腸筋層部における炎症細胞浸潤が観察されたほか、消化管運動のペースメーカー



Journal of Smooth Muscle Research 優秀論文賞は遠藤氏ら、江藤氏らの2編の論文に決定

日本平滑筋学会は機関誌 Journal of Smooth Muscle Research のさらなる発展を目的として優秀論文賞を創設しました。各巻毎に、会員が筆頭著者である掲載論文すべての中から、最も優れているものを表彰するものです。第58巻(2022年)は遠藤真理氏(北里大学)らの論文と江藤真澄氏(岡山理科大学)らの論文の2編が選ばれました。著者に受賞論文の概要を紹介していただきました。

漢方薬・半夏厚朴湯の抗炎症作用を介した術後腸管麻痺改善作用

受賞論文: [Mari Endo](#), Tetsuro Oikawa, Miki Tonooka, Toshihiko Hanawa, Hiroshi Odaguchi, Masatoshi Hori. Hangekobokuto, a traditional Japanese herbal medicine, ameliorates postoperative ileus through its anti-inflammatory action. *J Smooth Muscle Res.* 58: 78-88, 2022

遠藤 真理

北里大学薬学部附属
東洋医学総合研究所
漢方臨床研究室



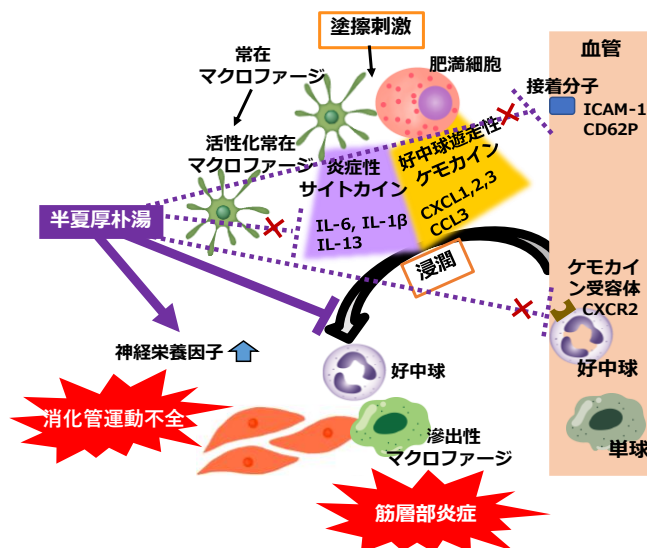
術後腸管麻痺患者における漢方薬治療には、大建中湯がクリニカルパスとして使用されているが、効果が不十分で改善が見られない症例もある。近年、術後腸管麻痺患者に対して半夏厚朴湯を含む漢方製剤が有効であることが報告されている。我々は、半夏厚朴湯の構成生薬の一つ・厚朴の主要成分であるホノキオールが術後腸管麻痺モデルマウスに有効であることを明らかとしている。

術後腸管麻痺モデルマウスに対する半夏厚朴湯の効果を検討したところ、本処方の投与により消化管運動の遅延を改善し、好中球浸潤とマクロファージ浸潤の抑制作用を認めた。その作用機序を解析した結果、炎症性サイトカインや好中球遊走性ケモカインの増加は抑制しなかった。

半夏厚朴湯は、精神的な不安や緊張が招くのどの違和感や胃腸の不調などに用いられる処方であることから、神経栄養因子に着目したところ、半夏厚朴湯の投与でモデルマウスでの減少を有意に改善させたが、大建中湯では変化を示さなかった。

以上のことから半夏厚朴湯は、大建中湯と異なる機序で術後腸管麻痺モデルに対して緩和効果を示すことが明らかとなった。そ

の抗炎症作用に、NGFを介した作用が関係している可能性が考えられた。



CPI-17のN-/C-末端に存在する天然変性領域は平滑筋収縮におけるカルシウム感受性調節に必要である。

受賞論文: [Masumi Eto](#), Shuichi Katsuki, Minami Ohashi, Yui Miyagawa, Yoshinori Tanaka, Kosuke Takeya, Toshio Kitazawa. Possible roles of N- and C-terminal unstructured tails of CPI-17 in regulating Ca²⁺ sensitization force of smooth muscle. *J Smooth Muscle Res.* 58: 22-33, 2022

江藤 真澄

岡山理科大学 獣医学部



この論文では、共著者である北澤俊雄先生(写真右)とともに長年にわたり進めてきた共同研究の一環として、平滑筋の収縮にお

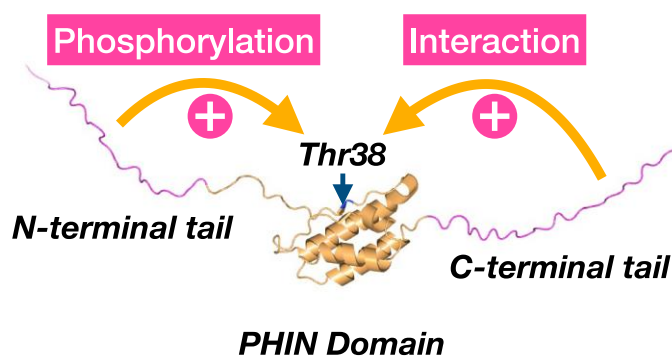
けるカルシウム感受性調節を支配するミオシンホスファターゼ調節タンパク質 CPI-17 の構造・機能相関に焦点を当てました。これまでの共同研究結果により、アゴニスト刺激に応じて活性化される PKC と ROCK が CPI-17 の PHIN ドメイン (図) と名付けた阻害に必須な領域に存在する Thr38 をリン酸化することで、平滑筋収縮のカルシウム感受性が増強されることを明らかにしました。一方、CPI-17 の N 末端と C 末端に見られる二つの天然変性領域は、哺乳動物内で配列が保存されているにもかかわらずその機能が定義できていませんでした。

今回、これらの天然変性領域を欠損させた CPI-17 を組換えタンパク質として作成し、スキンド処理した平滑筋片に導入してカルシウム感受性を測定しました。その結果、全長の CPI-17 と比べ、N 末端および C 末端を失った CPI-17 では PDBu によるカルシウム感受性を増強する効果が低下しました。N 末端の欠損は PKC による Thr38 のリン酸化を抑制し、C 末端の欠損はミオシンホスファターゼへの親和性を低下させました (図)。

以前に行った精製したミオシンホスファターゼを用いた研究では、N-/C-末端領域の欠損は CPI-17 の阻害活性に影響しませんでした。生理的な平滑筋細胞内において CPI-17 の N 末端および C

末端の天然変性領域が平滑筋収縮のカルシウム感受性調節に必須であったという結果は驚くべきものです。

興味深いことに、この 2 つの機能調節ループ領域のアミノ酸配列が脊椎動物の進化において 3 つのグループに分類できることから、この天然変性領域が平滑筋機能の進化に関与している可能性が示唆されます。今回の受賞に感謝すると同時にこれを励みにして、CPI-17 を介した平滑筋研究をより深化させたいと考えています。



Human CPI-17 Alpha-Fold Model

第 66 回 日本平滑筋学会総会 8 月に東京にて開催!

第 66 回日本平滑筋学会総会は本年 8 月に日本医科大学主任教授・岩切会長のもと日本医科大学同窓会館橘桜ホールにて開催されます。会期は 2024 年 8 月 2 日(金)~8 月 3 日(土)の 2 日間です。演題登録、及び参加登録は総会ホームページにて受け付けます。たくさんの方のご参加お待ちしております。

第 66 回日本平滑筋学会総会の開催にあたり

第 66 回日本平滑筋学会総会
日本医科大学 消化器内科学
主任教授 岩切 勝彦



この度、第 66 回日本平滑筋学会総会を 2024 年 8 月 2 日~3 日(金、土)の 2 日間にわたり、日本医科大学、同窓会館橘桜ホール(東京都文京区、千駄木)におきまして開催する運びとなりました。歴史と伝統のある本総会の会長を務める機会をいただきましたことを大変光栄に存じますとともに、責任の重さに身の引き締まる思いであります。理事長の眞部紀明先生をはじめとする平滑筋学会の皆様にご心より感謝申し上げます。

今回、第 66 回を迎える本総会のテーマは「平滑筋研究を基盤とした新たな領域へ」とさせていただきます。特別講演では臨床系からは東北大学の福土 審先生に「IBS の病態(仮)」、基礎系からは日本医科大学の福原茂朋先生に「蛍光生体イメージングによる血管構築メカニズム(仮)」についてご講演をお願いいたしました。招聘講演として富山大学の中根俊成先生より「自己免疫性自律神経節障害」についてのご講演をいただきます。会長企画シンポジウムとして、「食道運動異常症、GERD、FD の病態、基礎と臨床」、「IBS、便秘症の病態、基礎と臨床」の 2 つのシンポジウムを企画いたしました。また、症例検討セッションとして「診断に苦慮した食道運動異常症」を企画いたしました。その他、例年の如く「YIA セッション」、「若手の会主催企画シンポジウム」、「基礎系のシンポジウム」、「漢方セッション」、ポスターセッションも企画しております。

本会では若手の先生方の参加も多く、交流を深めることも学会参加の重要な意義でありますので、初日夜に企画しております全員懇親会に奮ってご参加をいただけますと幸いです。多くの皆様にご参加をいただき、活発な議論を繰り広げて下さいますようお願い申し上げます。

大会事務局
日本医科大学 消化器内科学
〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5

運営事務局
第66回 日本平滑筋学会総会運営事務局
〒1134033 東京都文京区本郷4-1-3 右邊ビル6F
株式会社フランニングウイ内
Tel:03-6801-8084 Fax:03-6801-8094
E-mail:jssmr66@pw-co.jp

会長 岩切 勝彦 (日本医科大学 消化器内科学 主任教授)
会場 日本医科大学 千駄木キャンパス 同窓会館橋桜ホール
〒113-8602 東京都文京区千駄木 1-1-5
会期 2024年8月2日(金)3日(土)

第66回 日本平滑筋学会総会

寄稿：

第 1 回平滑筋筋電図研究会 (昭和 34 年 8 月) を顧みて

東原正明

北里大学名誉教授
日本平滑筋学会名誉会員

2012 年 10 月に義父白鳥常男(日本平滑筋学会名誉理事長)が他界してより早や 11 年が過ぎました。小生は、年に 4、5 回北仙台の義父の家を尋ね、書斎を少しずつ整理してきました。最近、平滑筋筋電図研究会会員名簿 昭和 34 年 8 月 31 日現在(第 1 回平滑筋筋電図研究会編)(図 1、次頁)と醫學書院の綜合醫學 第 17 卷第 2 号 昭和 35 年 2 月発行(図 2、次々頁)を見つけました。

日本平滑筋学会は昭和 34(1959)年 8 月 6 日に第 1 回平滑筋筋電図研究会として発足し、会長は、弘前大学外科教授の榎 哲夫先生が担当され、仙台市の東北大学医学部中央講堂で開催されています。名簿の巻頭文として榎 会長は以下(次頁)のように述べられています。

平滑筋筋電図研究会設立にあたり

去る6月5・6日弘前市で行われた第12回筋電図学会に於いて東北大白鳥氏より平滑筋筋電図研究会を作り研究推進の基礎を作ってみてはとの提案があり、評議員会に於いて多数の賛成を得る結果となりました。

私は時の筋電図学会総会の会長であり、又平滑筋筋電図の研究を続けてきた一人として、早速発起人を挙げ相談いたしました。差当り東北大学武藤完雄教授、本川弘一教授、穴戸仙太郎教授、鈴木泰三教授に中心になって戴き、第1回平滑筋筋電図研究会を8月6日に東北大学医学部で開くことが出来ました。

提案があつてから2か月という短期間内の開催であつたので、周知方、準備等に不行届の点が多い事として如何なる研究会が誕生するのか、懸念が無いわけではなかつたのですが、皆様の非常な関心と御協賛を戴き会員申込390名、研究会出席者133名に達する発足にしては珍しい程の盛大な研究会を迎えることが出来ました。是ひとえに従来黙々として本研究を続けてこられた諸研究者の立派な業績の賜と、種々の面で御後援下さった会員諸兄の御蔭によるものと、深く御礼申し上げると共に、主催者側として設立の目的に聊かなりとも副い得た様な気が致し欣快に堪えません。

第1回平滑筋筋電図研究会を期にして将来本研究が飛躍的に発展する事が出来る様会員諸兄の御推進を御願ひ致して止みません。

8月17日 羽田空港にて
有志代表 榎 哲夫

会員申し込み390名、研究会出席者133名は驚きです。この名簿の編集者は義父白鳥常男が担当し、発行所は東北大学泌尿器科教室内と記載されています。白鳥は生前、自分はしばらく外科を離れ泌尿器科に所属していた、と申ししておりましたが、この時期だったのでしょう。また、総合醫學2月号には、特集 第1回平滑筋筋電図研究会記録として12名の演者の発表内容が記載されています。添付の表紙の写真(図2、次頁)は鮮明ではありませんので、以下(次頁)に転記します。

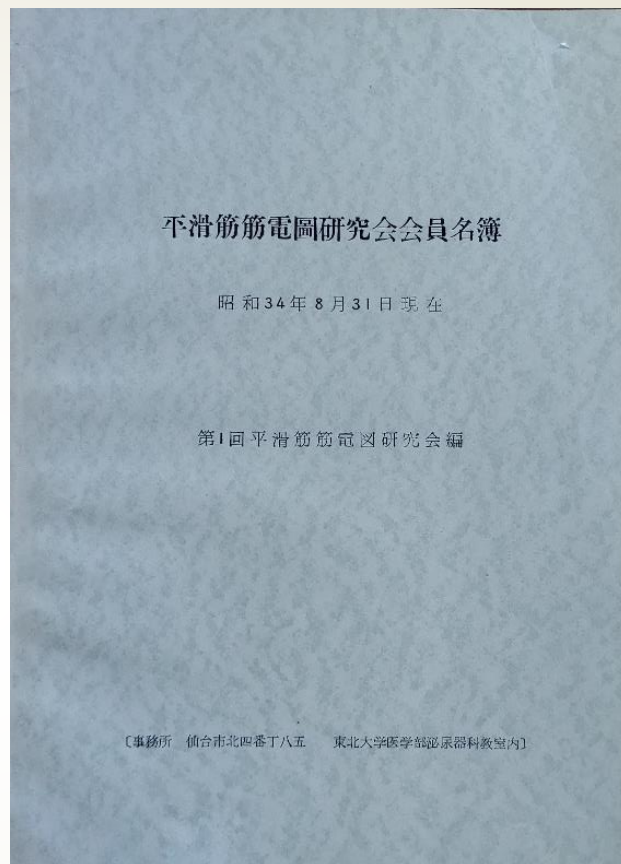


図1 平滑筋筋電図研究会会員名簿

発表者の所属を列記しておきます。敬称は略します。白鳥常男(東北大泌尿器科)、市河三太(昭和医大第二生理)、丹生治夫(京都大教養生理)、後藤昌義(九州大生理)、横山正松(福島医大生理)、榎 哲夫(弘前大外科)、植田 隆(大阪大第一外科)、田北周平(徳島大第一外科)、鈴木泰三(東北大応用生理)、武藤完雄(東北大武藤外科)、井上清恒(昭和医大生理)です。平滑筋筋電図研究会ですから基礎系は生理学、臨床系は外科、泌尿器科から出発したことは頷けます。

特集 第1回平滑筋筋電図研究会記録

まえがき
 大尿管における尿流と尿管放電について
 胃および尿管の活動電位とその伝導について
 子宮の活動電位について
 子宮平滑筋細胞内電位におよぼす温度の影響
 小腸縦走筋層および輪層筋層の生理学的性質
 十二指腸壁筋およびOddi 氏筋部の活動電流について
 腸管の平滑筋筋電図について
 平滑筋臓器の運動異常と活動電流
 細胞内電極による腸管活動電位の観察
 胃の活動電流について
 カタツムリ咽頭牽引筋の活動電位について

榎 哲夫・・・111
 白鳥常男・・・112
 市河三太・・・117
 丹生治夫・・・122
 後藤昌義・他・・・127
 横山正松・・・131
 榎 哲夫・・・132
 植田 隆・・・137
 田北周平・・・141
 鈴木泰三・・・146
 武藤完雄・・・150
 井上清恒・他・・・154

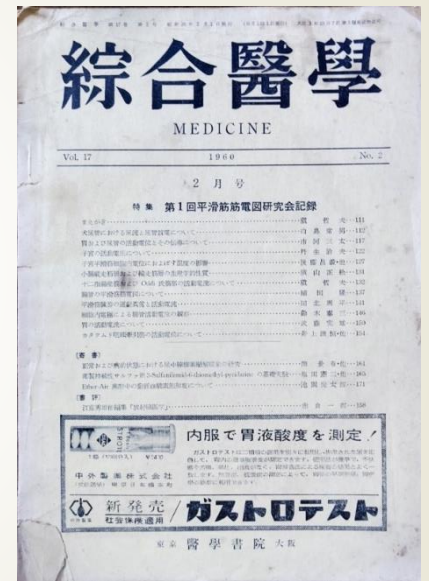


図2 総合医学(1960 No.2) 表紙 (医学書院)

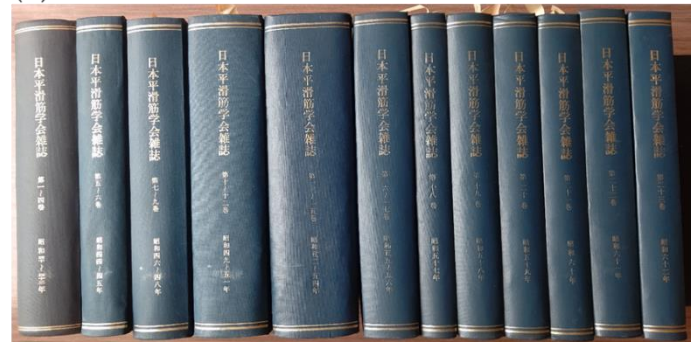
平滑筋筋電図研究会会員名簿を閲覧しますと、生理学、外科、耳鼻科以外に、薬理、内科、産婦人科、小児科、整形外科、皮膚科に所属されている先生方も結構いらっしゃいます。

白鳥の書斎の本棚には、日本平滑筋学会誌、昭和40年(第一巻)～昭和62年(二十三巻)は製本されて並べてありました。

(図3a) それ以降の学会誌は、横に積み上げられていました。日本平滑筋学会誌(Japanese Journal of Smooth Muscle Research)は、1990年26巻6号 p.343-477 第32回日本平滑筋学会講演抄録(II)伊藤 漸で終了になっています。これに代わって、英文誌、Journal of Smooth Muscle Research (JSMR)、1991 Volume 27 Issue 1 Pages 1-11 が出版され、現在の2023, Volume 59 に至ります。図3b、図3cは、日本平滑筋学会誌およびJSMRの表紙の写真です。同じサイズに見えますが、日本平滑筋学会誌はA4サイズ、JSMRはB5サイズです。周知の通り、論文の閲覧は、J-STAGEで可能になっています。

ちなみに、日本平滑筋学会誌(1965年1巻1号)の最初の掲載論文は、榎 哲夫先生の「平滑筋筋電図の総合研究における合同実験の記録」です。白鳥の本学会誌の最初の掲載論文は、白鳥常男, 旗福哲彦, 関根 毅 「胃酸分泌領域におよぼす迷走神経支配の影響」1965年1巻2号 p.223-228. です。

(a)



(b)



(c)

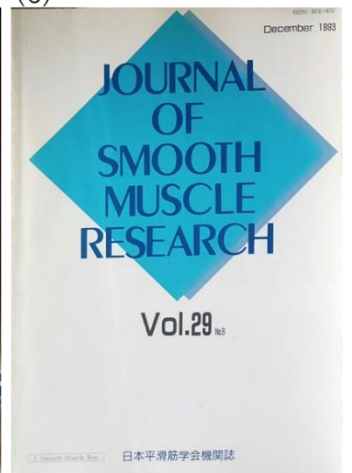


図3 (a)日本平滑筋学会誌 (第一巻～第二十三巻)

(b) 日本平滑筋学会誌 第26巻 第1号

(c) Journal of Smooth Muscle Research Vol.29 No.6 (1993)

2015年度から毎年、白鳥常男賞が若手研究者に贈られています。今後も基礎系・臨床系の数多くの分野で研究に専念されている若手研究者が、本学会に入会され、会の発展に御尽力いただければ

幸甚に存じます。2024年度白鳥常男賞の募集が始まっています。多くの応募がありますことを祈念致します。

平滑筋学会若手の会の活動報告



梶 典幸

日本平滑筋学会若手の会会長
麻布大学 獣医学部

日本平滑筋学会「若手の会」は平滑筋研究に関わる若手研究者の交流を促進するため毎年夏にシンポジウム、冬に研究発表会を開催しています。本年度の第65回日本平滑筋学会総会では若手の会が主催となりオーストラリアの Australasian Society of Clinical and Experimental Pharmacologists and Toxicologists (ASCEPT) とジョイント web セッションを実施いたしました。セッションでは、ASCEPT の Luke Grundy 先生、日本平滑筋学会の椎名貴彦先生をはじめとして、双方から4名ずつ計8名の若手研究者の方にご発表をいただきました。初の試みであったことから不安はありましたが、ASCEPT の参加者と活発な議論をすることができ、非常に充実した内容であったと感じております。シンポジウムをオーガナイズしていただいた玉田宏美先生(福井大学)、白曉鵬先生(九州大学)、Iris Lim 先生(ボンド大学)ならびに、ご発表いただいたシンポジストの皆さまにこの場を借りてお礼を申し上げます。これを機に、今後も若手の会から国際的な取り組みをご提案できればと考えております。

本年度の冬の研究発表会は鹿児島大学の加治屋勝子先生が幹事となり、2月中旬に鹿児島大学(郡元キャンパス)にて実施いたしました。例年通りの研究発表に加え、桜島ツアーも企画していただき、非常に充実した内容となりました。研究発表では5名の発表に加えて、特別講演として内藤清惟先生(鹿児島大学)にご講演いただきました。毎度のことながら、気心の知れたメンバーと和気あいあいとした雰囲気での深い議論ができる環境があるという若手の会の良さを強く感じました。発表会の後は意見交換会を実施し、研究以外の話題も含めて多いに盛り上がりました。お忙しいなか、幹事を引き受けてくださった加治屋先生とご参加下さった皆様に感謝いたします。

若手の会は新規会員が着実に増えておりますが、中心的メンバーの高齢化(?)が進んでおります。本学会における若手の会に対する期待が大きいことを感じておりますので、共に日本平滑筋学会を盛り上げていただける若手研究者の方がご入会していただけることを望んでいます。もし、お近くにそのような方がいらっしゃいましたら、是非、お声がけいただけると大変助かります。今後とも、若手の会をどうぞよろしくお願いいたします。



第10回若手の会研究発表会 集合写真



第 10 回若手の会研究発表会 鹿児島にて桜島大根づくしのおもてなしを受けました

日本平滑筋学会へご入会を

本会は平滑筋に関わる基礎・臨床研究者が集う日本医学
会所属学会です。機関誌 *Journal of Smooth Muscle
Research* は“IF 相当値”が 3 前後で国際的にも評価されて
います。学術集会では優秀発表を学会賞として表彰してい
ます。皆様のご入会をお待ち申し上げます。
(入会に関するお問い合わせ先 E-mail: jsmr-admin@umin.ac.jp)

Journal of Smooth Muscle Research へ ご投稿をお願いします

機関誌 *Journal of Smooth
Muscle Research* はオープンア
クセスジャーナルで J-STAGE
([https://www.jstage.jst.go.jp/
browse/jsmr](https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsmr)) よりご覧いただ
けます。また、2017 年より
PubMed Central® (PMC) に正
式収載されました。皆様から
のご投稿をお待ち申し上げます。
投稿料は無料です。詳しくは学
会 HP よりご確認ください。

